6/18 号福

公示直前 立候補予定者に聞く ⑭ 参院選ふくい

二十二日公示の参院選が目前に迫ってきた。福井選挙区（改選数一）では、過去最多の六人が出馬を予定している。立候補の動機や、最も訴えたいことをインタビューで尋ねた。

山崎　正昭さん（80）自民現

3つの安全保障軸に

6選への意欲を語る山崎さん＝福井市で（浅井貴司撮影）

―六期目を目指す動機は。

「一年半ぐらい葛藤した。健康で六年間務まるかなと。主治医と相談し、健康状態は『お墨付き』をもらった。そうした中、県内の首長、議会の皆さんから『もう一期やってほしい』と言っていただいた。地獄に仏のような思いで、ありがたく真心を受け止めた。家族や後援会の皆さんにも相談し、決断した」

―最も訴えたいことは。

「食料、エネルギー、国防の三つの『安全保障』を軸に、四つ目の柱として教育・子育ての重要性を訴えていく。農林水産業は私のライフワークであり、食料自給率はしっかり上げる。エネルギーがないと日本の経済は成り立たず、県内の原発もよく議論すべきだ。自衛隊を含めて防衛力の強化は必要と考える。次世代を担う子どもの教育、子育て支援をきっちりやることが重要。このあたりが争点」

―新型コロナ対策として今必要なことは。

「国内産ワクチンや治療薬、予防薬の開発をどんどん進めるべきだ。海外と比べ、出遅れたことは否めない。アクセルを踏み、スピード感をもってやっていく。一日も早く収束させ、経済を再稼働させる」

―オールドパワーを発信している。自らの強みは。

「若い人が四つ相撲を取るには、土俵に上げるリード役も必要。私はその役割を買いたい。県民の皆さんに育てられた私だから、覚悟してやります」

―若い有権者にはどうメッセージを伝えていくか。

「（ユーチューブ、ツイッターなど）インターネット関係も勉強している。そういったツールで発信し、私の考えを分かってほしい。一人前にはなれないかもしれないが、少しでも前進していきたい」

（聞き手・玉田能成）

山田　和雄さん（54）共産新

憲法と国民生活守る

立候補への考えを話す山田さん＝福井市で（蓮覚寺宏絵撮影）

―立候補の理由は。

「日本が七十七年間戦争を経験せずにこられたのは世界の歴史の中でもまれなこと。その平和が今、揺れている。ウクライナの危機を軍拡の理由付けにすることは許されない。憲法を壊させない、平和への思いが、立候補の根底にある」

―最も訴えたいことは。

「やはり憲法九条を守るということ。武力に対抗する方法は武力だけではなく、最も重要なのは外交だ。ただし、戦争がなければ平和を実感できるかというとそうではない。異常な物価高騰の中で、国民生活は窮地に立たされている。消費税の引き下げ、賃上げは急務。これらを両輪で考え、平和の大切さを再認識してもらう訴えができれば」

―北陸新幹線開業に当たり、県内の課題は。

「新幹線計画は誰のためにあるのか。より大きな土地に活力が吸い取られるストロー効果が指摘されている。代償として、在来線の利便性が失われる懸念も拭えない。開業は敷賀まででとどめてはどうか。身の丈に合った町づくりやインフラ整備を進めていくべきだ」

―野党共闘が見送りになった。選挙戦への影響は。

「実現できるのであれば、私は降りても構わないという覚悟だった。それだけに、見送りとなったのは残念。次の衆院選に向け、党の求心力を高めることが大切だと考えている。独自策を打ち出していけば、訴えは届くと思う」

―当選したら実現したいことは。

「個人的な頑張り所としては、ジェンダー平等の問題。性別は本人に決定権はないのに、賃金格差として現れている。これは差別だ。人間の根源的な部分を差別の材料としている社会ではいけない。重要な争点として、是正を訴えたい」

（聞き手・波多野智月）